

— BREVE —

# Sob o céu de Roma

心で叫んだ言葉は拭い去ることではできぬ……イタリアの空にやきついた愛の肖像！  
甘いブドウ酒の香りが 古代の廃墟く恋の灯をともし……



ローマに咲いた戀  
脚本 木下恵介  
監督 川頭義郎

早川 保  
荒沢 修  
加藤 嘉  
仲谷 昇  
諷淵 晴子  
委野みゆき

Complimento Nacional

て、今になつて急に云い出すなんて、お父さんも勝手すぎる——

しかし弟の和夫の話だと、路子は幸一の後輩の三浦（吉田輝雄）を好きらしいという。それを聞くくと平山は早速、幸一に相談した。幸一夫婦もあの男ならと大賛成で、三浦を呼び出した。幸一がそれとなくその真意を探つてみると、三浦も前々からひそかに路子のことを考えていたらしいのだが、まゝ人は当分縁になんかしかた。人々と思つて、つい先頃或る娘と婚約を結んだばかりだという。平山も幸一も急、路子がいじらしくなつた。

「いいいよお父さん、三浦さんに聞いてもらつてよかつたわ。あたしはただ後悔したくなかつただけなの。」

と路子は云う。口ではそう云つていても路子の心がどんなにみじめなものかは平山にも幸一にもよくわかつた。

秋も深まつた日、路子は、河合の細君（三宅邦子）がすすめる相手のところへ、静かに嫁いでいた。

やつとの思いで重荷をおろしたのはものの平山の心は何か寂しかつた。河合や堀江がすすめる酒も口に苦がく、足はおのづから酒場「かおる」に向つた。いつものながらの賑やかな車騒み。それを聞いても平山の心は深、沈んで浮き立たなかつた。家へ帰つても、路子のいない部屋の中は、どこかポツカリ穴があいたように虚しかつた。

「結局人生は一人ぼっちだ……」

平山は和夫と枕をならべて床に就きながら、いつまでもいつまでも眠れなかつた。

21475/43



お買物は

カルポンプエノ街四

聖市カルポンプエノ街四  
アルベル街二六四九

紳士、淑女用洋服一切  
カミザリア洋品一切  
紳士用既製服一切  
最高技術！  
最低値段！  
便利な月賦！



ガルボン・ブエノ街一三二番  
電話三七・二四二〇

料亭 款川  
聖市ガロリア街 891

## Programa de Hoje

de 20 a 26 de Janeiro de 1964  
Das 12 hs. sessões corridas  
Complemento Nacional

TRAJER  
Noiva De calça

休憩時間中、演奏されるレコードは  
はコムビテ、キング・レコード  
があります。

一月二十日より一月二十六日まで  
毎日二時より上座しておられます  
告 白

愛と悲しみと 三人娘乾杯  
真夏の海 からみ食い  
ローマに咲いた恋  
小さな花の物語 母さん長生きしてね  
かあちゃん結婚しろよ 光たされた生憎  
はだしの花嫁

## はだしの花嫁

二十一日より上映

明るい空、そして碧い海——。今日も瀬戸内海にひとすじの白 航跡を残して、別府航路の観光船くれな、丸かゆく。

一週レディの婦人記者 杉山玲子（諷淵晴子）は社命により、近く連載される長篇小説の紀行取材のため、作家の山根爽太郎（南原宏治）と同行して、瀬戸内海から九州にかけて旅行することになり、このくれない丸に乗りこんでいた。女性關係でとかくの噂のある山根との旅行を、前から玲子に好意以上のものを感じている同僚記者沢村輝夫（山本豊三）の心配もよそに、これもビジネスと割りきつて玲子は出発したのだ。

とろろが、東京の酒造会社の社長である玲子の父泰輔（佐野周二）が、原酒買いつけのための関西出張中で、思いがけなく同じ船に乗っていた。しかも泰輔は神戸のハイ（月丘夢路）と同伴であるから、おだやかでない。不意の親娘対面、泰輔は「このマダムは無理やりついて来たんだ」と言いわけをしてはじまらず、加代は加代で、前から常連のヤマソウ先生のこと、山根爽太郎が、暮ら泰輔の娘と同はんであるから、「これはとんだことだ」と人とながら心配する。一方、玲子は以前



NOMOTO & FILHOS LIMITADA



きつとお氣に召す  
新式  
黒呂と黒呂釜  
聖市エスツダンテス街  
電話三四・一七五三  
三〇六

Rua dos Estudantes, 306 — Telefone 34-1753

錦水自慢の「釜めし」  
を御試食下さい。



料亭 錦水

オズワルド・クルリス  
劇場近く

R. Desembargador Elisio Guilherme, 123

中學時代の仲間が七、八人集まって、最近消息のわかつた「ヒョータン」佐久間老先生（東野英治郎）を迎えてのクラス会の席上、話は旧師、ちの噂から、老先生の娘伴子（杉村春子）のことに移つていつたが、昔は可愛かつたその人が早く母親を亡くしたために今以つて獨身で、先生の面倒を見ながら、場木の小さな中華ソバ屋をやつてゐるという。

早く路子ちゃんを片付けるよ。うかうかしてるとお前もヒョータンみたいなになつてやうぞ」と河合は云つた。

平山はその中華ソバ屋にも出かけていつて伴子にも会つてみたが、境遇こそどこか似ているものの、まさか路子が伴子のような妙にイライラした老嬢にならうとも思えなかつたし、勿論また、そ

れほど長く自分の傍においておこうなどとも思わなかつた。それよりもむしろ、その店で偶然出会う海軍時代の部下の坂本（加東大介）とムリヤリ運命をいかけた場末の酒場「かおる」のマグダム（岸田今日子）が、どこか亡妻に似たことこの力が、今平山には心ひかれるものがあつた。平山は子供たちにもそのマグダムの話をした。幸一は一度見たいと云い、路子は見たくないという。路子としては子供心に覚えていた母の印象をこわされたくなかつた。あろう幸一の家庭、至極おだやかで、たまに夫婦の間で争いがあつたとすれば細君の秋子が冷徹庫を怪しいというのに、幸一はゴルフのクラブを買いたいといつて兩方の感情がこじれるくらいのことだつた。

老先生が会社へお礼に來た日、平山は酒好きの先生を誘つて、河合と一緒に、馴染の小料理屋へ出かけたが、先生は呑むにつれ酔つたつれ、自分だけ、愛着と便利さから娘の婚期を逃がしてしまつたこと、愚痴をならべ、こゝろなつゝ、あると娘、決して親の好意など感じないないし、人間は結局ひとりぼっちだ、酔眼に涙を浮かべて淋しい。

路子、お前お嫁にいいかなにか。

平山が切り出したのはその晩だつた。路子は初め酔つた上での冗談だと思つて相手にしなかつたが、それが眞面目な話だとわかると、妙に腹が立つてきた。自分は当分結婚なんか出来なないものとあきらめていた。自分がいま片付いたら、あと一体どうするつもりだろう。今日ま、放つとい

ダム球場の取材で知りあつた電線開発の技師矢代英二（寺島達夫）と甲板で再会し、仕事のみに情熱をそそぐ矢代の男らしさに心をうたれるのだつた。玲子は「ヤマソウ先生」に、矢代に会つたのをヒントにして「中」の小説の主人公は電線開発の技師……彼は松山あたりには可憐な恋人がいる……その恋人は彼を追つて、ちつぽいなボンボン蒸汽船で海を渡つてゆくのだ。海を渡る花嫁……つて題に、びつたりじやない」と紀行の題材を提供する。

船が四國松山の外港高濱、着くと、泰輔が神戸から連絡してあつたかつての戦友中島勘治（三井弘次）と、娘の洋子（倍賞千恵子）が出現してゐた。勘治は高濱一尾道間の定期蒸汽船の船長であり、洋子は勘治の戦友の

遺児で、母のたね（櫻子）が経営する伊予がすり店の看板娘と町で評判だ。それに生きぬ仲とはいへ、剛親の洋子への愛情は人の目もうらやむほどだつた。その洋子も前から矢代に想いをよせていたが、最近、剛親のすゝめで尾道の新聞支局に勤める倉本良平（早川保）との間に縁談がおこつていた。この日、港に迎えに來たのは、一つに矢代に会うためだつた。玲子が「ヤマソウ先生」に提供した小説のすじがそのまま、二人の恋を物語つてゐるようだ。

泰輔は真郷の地で久しぶりに会つた戦友の勘治と、海軍時代の話に花を咲かせて飲み合つた。そこで泰輔にふられた加代が、純情な玲子か、色どりの兩天びんをかけた「ヤマソウ先生」も見事二人からふられ、玲子と

「ヤマソウ先生」は別府へ向う。

別府には、父親の病氣、と称して玲子の後を追つて來た輝男が今や遅しと待ちかまえていた。かくれ、尾行しようとしたものの、輝男は玲子にばつてり会つてしまひ、玲子はブンブン。まして矢代技師に洋子が恋してゐると「ヤマソウ先生」に提供した話が、事実は小説より奇々で、本當になつてしまひそうなので、玲子は気が気でない。別府見物も上の空で松山に引返し、玲子は意を決して、矢代の工事現場を訪れ、東京での再会を約束のつた。

東京へ帰つた玲子は「ヤマソウ先生」の賣いた「海を渡る花嫁」の編集に追われていた。或る日、週刊レディ社のれい子へ矢代から電話で「東京に着いたから早速……」

と云うのである。矢代の裏家は、浅草名代のでんぶら屋「天八」で、店は職人にまかせ、母の文江（高橋とよせ）と二人だけの家族であつた。それだけ矢代は仕事が終わつた東京に帰れば、カツボウ着を着て天ぶらをおけるという何でもござれの男ぶり。そんな一面にもれい子は參つてしまつた。「ヤマソウ先生」や、輝男を誘つては「天八」通いの日が続く。これで頭にくたのは輝男で、舌のすべりは良くはなつても矢代の存在に気が喰わな

その頃、剛親には「花嫁修業」ということで洋子が上京してくる。実は洋子は矢代への気持が断ちきることができなかつたのだ。上京して眞つすぐに訪れた「天八」の店前にはつてあつた「女中入用」を見て、「どうせ



KUMAGAI & KATIKI LTDA.  
Rua da Gloria, 224 — Tel. 33-2641  
Rua Galvão Bueno, 152 — Tel. 36-2909  
São Paulo

御結婚、御誕生、御卒業等  
記念、バザサード、ブ  
マイラ、コムエオン等。  
三六・二九〇九番にお  
電話下さい。さばすく参上  
いたしました。

シネ・フオート  
サンパウロ  
熊谷・加治木共營  
グロリア街二二四  
電話三三・六四一（呼出）  
ガルボン・フエノ街二三  
電話三六・二九〇九  
写真機その他の賣買、交  
換、修理など親切に御相  
談に應じておりますから  
御用命下さい。

あけまして  
おめでどう  
ございます

傳統を誇る当店の製品は、友人、  
知己への贈りものには最適です。

布地専門の当店には  
他の追随を許さない製品が  
豊富にストックされております

CASAS  
PERNAMBUCANAS  
ONDE TODOS COMPRAM